東海国立大学機構副機構長　岐阜大学長に吉田和弘氏が就任

吉田　和弘（よしだ・かずひろ）1958 年広島生。84 年広島大学医学部卒、90 年広島大学大学院外科系専攻修了医学博士。専門は外科学，消化器外科学，腫瘍外科学，臨床腫瘍学。英国オックスフォード大学留学などを経て 2007 年に岐阜大学大学院腫瘍外科学分野教授。鏡視下手術などの低侵襲外科手術の権威でもある。18 年から岐阜大医学部付属病院長としてコロナ対策にも尽力。22 年 4 月から現職。趣味は釣り。座右の銘は「和を以て尊しと為す」

「世界をリードし地域変革を牽引する機構」「岐阜大は日本一の地域中核大学を目指す」

名古屋大学と岐阜大学の運営法人が統合し、複数の国立大学を運営する日本初の国立大学法人「東海国立大学機構」が 2020 年４月に発足してから２年が経過した。両大学の特長を生かし、新しい時代の大学モデルの創造、国際競争力の強化と地域創生への貢献を連携して目指すという。今年４月名古屋大学総長に就任した杉山直氏とともに岐阜大学は吉田和弘氏が学長に就任。杉山総長、吉田学長がそろって同機構副機構長を務める。弊誌は６月号のインタビューで杉山氏に登場いただいたのに続いて吉田氏にも同機構にかける情熱と学長就任の抱負などを聞いた。

（聞き手は塚本隆・編集長）

塚本　岐阜大学の学長と同時に副機構長のご就任ですね。

吉田　３年目を迎えた東海国立大学機構の副機構長としての任期はこれから６年間、真価が問われる６年です。新機構長の松尾清一先生と名大の杉山総長と力を合わせて機構の発展に向けて努力したい。希望に満ちた半面、その責任は極めて重く、身の引き締まる思いです。子や孫の時代になって、岐阜大学が栄えたのは名大との経営統合があったから、と言ってもらえるような歴史的使命を果たす６年としたい。機構の目指すものは世界と伍する、と同時に地域の発展と教育をけん引する。この「二兎」を追えるビジョンに基づいて両大学の課題を全うすることが大きな役割です。

――東海国立大学機構はまだあまり知られていません。

吉田　日本の科学技術力が世界のトップだと思っていたらいつの間にか欧米や中国に追い越されていた。さらに人口減で入学者も減り、優秀な人も減る。これらの課題をどう解決するか。２つの国立大学が力を合わせることによって、１＋１が４や５になるように、と経営統合されたのです。経営する法人と２大学の「３本の矢」が力を合わせ、世界を目指し、地域も活性化、研究力を高め産業を興す。産業が活発になれば